認定特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
2022 年度 活動報告書

令和５年３月３１日

Cloud JAPAN

認定特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
代表理事　田中 惇敏

mail. info@cloud-japan.org
tel. 0226-29-6514
fax.0226-25-7523

目　　次

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業
　1.1 気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム ” コソダテノミカタ ”
　1.2 建築ストック活用の民衆化を目指した支援の研究
　　1.2.1「子育てのしやすさ」に関する研究
　　1.2.2 関係人口創出に関する研究
2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業
　2.1 気仙沼市ふるさとワーキングホリデー
3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業
4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業
　4.1 講演活動
5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業
　5.1 錦江町ゲストハウス Yorodde
6. 運営組織
7. 収支報告
　7.1 ２０２２年度活動計算書
　7.2 事業別損益の状況
8. 終わりに

Cloud JAPAN

1. ソーシャルアントレプレナーが集う場づくり支援事業

本事業では、全国のソーシャルアントレプレナー（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN では「誰かのために何かをする喜びを楽しんでいる人たち」と定義する）が地域貢献する上での活動を支援している。

2022 年度は新型コロナウイルスの影響により，昨年のごとく実際に訪れて支援することは難しかったが，社会環境変化に即したオンライン指導環境の整備により，コロナ対応や政府の各支援制度の活用方法などを中心とした支援を続けることができた。

また，活動拠点のある宮城県気仙沼市における社会課題（子育てのしやすさ）解決にフォーカスをあて、コロナ禍が落ち着くまでに集中的に支援を行うことで、新たな課題解決モデルの提案を目指した。

一昨年度から始まった研究事業では、本年度もジャーナル論文公開など、一定の成果を上げることができたと考えている。今後も実践研究からビジョン達成に向けた歩みを着実に進めていく。

1.1 気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム”コソダテノミカタ”

1.1.1 活動背景

気仙沼市は３世代世帯が多く、地域コミュニティも盛んで、助け合いながら子育てができる町であったが、震災により、核家族化が進んだことで、子育てを取り巻く環境は大きく変容した。こうした状況の中、震災後の社会的緊急度の高さから復興予算で、子育て環境を改善しようとする市民活動が活発になったが、震災から１０年が経過し、予算が削られ、活動の中止を余儀なくされたことから、現状解決のため連携事業実施に至った。

そこで、気仙沼市の子育て支援団体と行政が連携し、包括的な子育てコミュニティを創造する。各支援団体が自ら価値を発信し、自立に向け成長し、多種多様な居場所が継続する仕組みをつくり、持続可能なまちづくりを目指す。

1.1.2 課題設定

●震災後希薄になった子育て・子育ちコミュニティの再生

震災後の祖父母世帯の減少 (40~70 代犠牲率 65.3%)

地域コミュニティの変化 (定住期間 5 年未満の世帯震災前 14.1% →震災後 28.2%)

●産みにくい、育ちにくい市内の環境改善

合計特殊出生率の低下 (2011 年 1.49 → 2019 年 1.16)

●夫婦の子どもの産む数の減少 (子どもがいない又は 1 人の夫婦が 75.9%。県内でワースト 3 番目)

1.1.3 昨年度末の構成メンバーと所属団体（五十音順）

赤畑 綾子（モリノネ）
足立 岬（気仙沼まち大学運営協議会）
大森 美和（にじのわ助産院）
小野寺 佳子（気仙沼市保健福祉部子ども家庭課）
熊谷 愛（けせんぬま森のおさんぽ会）
小林 峻（合同会社 colere）
佐藤 賢（NPO 法人ピースジャム）
佐藤 祐美（子育てシェアスペース Omusubi）
志田 ももこ（合同会社 colere）
菅原千枝子（気仙沼市震災復興・企画部人口減少対策統括官）
杉浦 美里（けせんぬま森のおさんぽ会）
鈴木 和海（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN）
田中 惇敏（認定 NPO 法人 Cloud JAPAN）
半沢 裕子（一般社団法人おりがみ）
星 麻希（子育て支援わくわくけせんぬま）
松本 光基（株式会社クロコカンパニー）
村上 和佳奈（子育てシェアスペース Omusubi）

1.1.4 昨年度の活動内容

1.1.4.1. 調査研究事業ミーティング実施　合計 144 回

【量的実施結果】

・査読付き論文 1 本

・報告会 参加 77 名

・市長との会談実施 1 回

・商工会議所主催の報告書 1 本

【質的実施結果】

・昨年 6 月に「実践政策学 第 8 巻　第 1 号」に掲載された。

・財団の皆様はじめ、市長、担当部長、市民、他に 2 月 2 日報告会を開催できた。

・市役所主催「けせんぬま未来人口会議」に「子育てファースト」という分科会が設置され、「子育て環境の改善」という共通テーマが設定された。

・コソダテノミカタとして招致していただき商工会議所主催人口減少対策会議にて分析・提言できた。

1.1.4.2. 子育て団体連携企画実施　合計 23 回

【量的実施結果】

一時預かり事業 1,015 名

屋外活用事業 530 組

助産院事業 198 名

コミュニティ形成事業 1,121 組

カフェ事業 1,105 組

（カフェ 1251 組、子ども食堂 300 人、出張託児：197 名）

代表者会議実施 2 回

【質的実施結果】

事業代表者の育休産休やコロナの影響等、やむを得ない事情で一部目標に達しない事業はありつつも各団体同士が連携し互いに各施設の広報活動を行うことが出来た結果後半はどの団体も利用人数が増加傾向にあった。Instagram 等で継続的に子育てママへの情報発信が出来た。２・３月に事業代表者での意見交換会を実施し次年度に向けての状況確認を実施した。

1.1.4.3. 連携プロジェクトに関する活動実施　合計 149 回

【量的実施結果】

●イベント：599 名

タウンミーティング (大人 42 名 , 子ども 17 名)、川柳写真 (187 名)、シネマひろば 196 名、買い物ワークショップ (大人 35 人 , 子ども 53 人)

モリノネ講演会 (大人 42 人 , 子ども 27 人)

●連携企画：37 回 ,250 組

民間団体連携 23 回 ,107 組

児童館連携 4 回 , 約 85 組

連携ツアー 4 回 ,30 組

妊産婦講座 6 回 ,28 組

【質的実施結果】

12 月に開催した映画イベントは、コロナとインフルエンザ流行の影響を受け想定よりも集客が見込めなかったが、その他のイベントは順調に集客が出

来た。
また毎月継続して行っていた連携企画は目標値の倍以上の開催と集客が出来た。

1.1.4.4. 子育て団体への委託額：総額 約 1150 万
【量的実施結果】
・HATA：みやぎ地域復興支援助成金　約 350 万
・Omusubi：子育て世帯社会活動支援事業 27 件 約 6 万
・保育士ワーホリ事業：約 240 万
・認可外保育施設「自然あそび保育モリノネ」一時預かり事業：約 550 万
【質的実施結果】
事務局、子育て団体、行政との密な連携により委託交渉をスムーズに進めることが出来た。今年度の所属団体については安定した運営に繋げることが出来た。
また認可外保育施設「自然あそび保育モリノネ」が地域子ども・子育て支援事業「一時預かり事業」の受託も決定。

1.1.4.5. 個別伴走支援の実施　合計 9 回
【量的実施結果】
・コソダテノミカタの法人格取得について事務局で検討を進めた。
・法人成りの推進
任意団体モリノネの一般社団法人モリノネ設立の支援
・任意団体の新設及び加入
一般社団法人 プレーワーカーズの加入
唐桑地区で新たに子どもの居場所づくりをしたいママの加入を進めた。
【質的実施結果】
森のおさんぽ会の共同代表であった赤畑氏が新メンバーと共に一般社団法人モリノネを設立することを支援した。
また、新規の任意団体や新しいチャレンジをしたい個人の新規加入を進めた。

1.1.4.6. マーケティング・ブランディング
【量的実施結果】
・子育てワーホリ 参加 2 名
・南三陸からの視察 7 名
・web アクション記事掲載 28 件
・インスタ投稿数 88 件
・Facebook 週 1 回投稿
・2023 年版「住みたい田舎」ベストランキング 東北エリア子育て世代部門 1 位
・新聞掲載 三陸新報 18 回
・書籍掲載：建築資材研究者「市民がまちを育む」1 回
・動画配信：アチェ＝ジャパン・チャンネル　1 回
・ケーブルテレビ K-NET　3 回
・マーケティングチームとの打ち合わせ実施
・行政との情報発信意見交換会実施 1 回

【質的実施結果】
web 記事の掲載数を増やし、Instagram や Facebook での SNS を活用し情報発信が出来た。
行政とのさらなる連携を目指し年度後半には行政(子ども家庭課,秘書広報課,健康増進課,産業戦略課）と情報発信に関する意見交換会を実施。次年度は市の子育て施策とともに発信をしていく。

1.1.4.7. 事務局定例ミーティング実施　合計 54 回
　　市子ども家庭課・事務局連携ミーティング実施　合計 18 回
プラットフォームの活動全体を円滑に行うべく、以下のメンバーを事務局として会議を行った。

以上、受益者数合計：(8,995）名
内訳…未就学児（3,847）名　　年長～小学生（988）名
　　その他　（※属性　子育て中のママパパ 4,074 名・児童館,子育て包括支援センター等の子育て関連行政職員 86 名）

1.1.5 受益者からの声
・タウンミーティング
→慣れた場所や人の中、少人数で参加することでリラックスして話が出来ました。行政や民間の取り組みやサービスを知るきっかけにもなりました。
・妊産婦講座
→教えてもらえて良かったです。今後の事で考えていた事や不安に思っていた事が楽になりました。
→２人産んでいますが､まだまだ知らないことがたくさんだなと思いました！また産みたいと思いました（笑）ぜひたくさんの妊婦さんに聞いてもらいたいですね！
→今は看護学生だけれど、いつか子育てをするママパパたちのサポートをしていきたいと思っていたので今回の話を聞いて少しでもラクに子育てできるようサポートに繋がるかなと思いました。
・川柳写真コンテスト
→今のママさん達の子育てに触れて、自分が子育てをしていた当時を思い出しました。子どもはみんなで育てていきたいですね。

1.2 建築ストック活用の民衆化を目指した支援の研究

本年度は、以下の通り研究全体のビジュアルデザインを取りまとめるとともに、その詳細の研究を進めた。その結果、「2022 年度グッドデザイン・ニューホープ賞」（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞することができた。

・研究タイトル

自走する建築ストック

・デザインの概要

「設計者不在、もちよる空き家。」が地域を救う。あえて設計図を描かないことによって、運営の担い手や地域住民の参画可能性を拓き、地域の変化に合わせて成長し続けた空き家活用プロジェクト。地域内に「もちよる→つくる→たのしむ」の循環を生み出すことで、地域の厄介者だった空き家が育ち、住民同士、よそものの縁をつなぐ。

・デザインが生まれた理由 / 背景

震災当初、ボランティア団体の代表として、ボランティアコーディネート（もちよる）を行い、被災地の人の温かさに触れたことで（たのしむ）、気仙沼市に移住した。その後ボランティアの滞在場所がないという課題と空き家問題を掛け合わせ、「架け橋」が始まった（つくる）。この宿が被災者と長期ボランティアを媒介し、信頼関係が生み出された。また昼間は絵本カフェ、夜はゲストハウスとなって被災した子育て世代の雇用という課題の解決にも寄与した。

絵本カフェを利用する子育てママが一時預かりがないことで困っているという声（もちよる）を受けて、地域にあるべき子育て支援施設の理想を利用者と建築学生と共に構想（たのしむ）し、「Omusubi」が誕生した（つくる）。

この一連の実践、このしくみを生かして立ち上がった「HATA」「架け橋サウナ」は、地域内外の人々がブリコラージュな場づくりに参画することで、空き家が社会起業家の活躍の舞台を与えている。

・デザインを実現した経緯

地方創生を目的とした建築分野で喧伝される課題とは、著名な建築家が関わったとしても「つくっておわり」になってしまう点にある。現に気仙沼の復興において数多くの有名建築家が参画してきたが、それらの建築物は観光資源としても有効に活用されず、「宝の持ち腐れ」に近い状況となってきた。一方で本プロジェクトでは地域内の誰かによって譲り受けた空き家を、誰かの創意工夫によって場が形成され、誰かが使用法の提案をすることで持続的に機能し続けている。その「誰か」が著名人ではなくとも、関わり続ける人が現れ、結果的にその建築は地域に在るべきコミュニティとして「もちより・つくり・たのしまれ」ている。このしくみが機能するために重要だったことは、「つくる」ことではなく、「もちよる」ことを起点に置くことであり、建築ストックの運用の担い手にマイニングを行い、この「もちよる」を実践する上で重要なことを 12 のパターンにまとめた。

GOOD DESIGN
NEW HOPE AWARD

Cloud JAPAN

「設計者不在。もちよる空き家。」が地域を救う。

近年、全国で進む空き家活用において、
設計図を描かないことによって、
運営の担い手や地域住民の参画可能性を拓き、
地域の変化に合わせて成長し続ける
しくみづくりに挑戦するプロジェクト。
「もちよる→つくる→たのしむ」の循環で
ソーシャルアントレプレナーの活躍をブースト!!

もちよる空き家 12のパターン

1 失敗おそれずトライ!
安全性・心理的安全性が保たれている。困った時・迷った時に頼れるメンバーがいるから、思いっきりトライすることができる。

2 オープンにしよう!
つくっているところが地域に・ゲストに開かれているからこそ、みんなが見守ったり、参加しやすくなる。

3 あるもの、もらいものを活かす!
人からもらったものを使うからこそ、思いもよらなかったものができることもある。空き家、食材、技術を全力で活用!

4 人が変われば楽しみ方も変わる!
架け橋に訪れる人は毎日変わる。Omusubiの子供も成長する。完成はない。相手に合わせて変化させよう。

5 生活に合わせ、使い方は無限大!
サウナも、Omusubiのフリースペースも、使い方に決まりはないので、使う人の生活に応じて変化させられる。

6 経験を活かせる場がある!
地域に必要とされているものがわかるから、提案できる・したくなる。特に、子育て経験のあるママが活躍中!

7 その得意が、自分の役割になる!
薪を割るのが好きなら、話をするのがうまいなら、お菓子をつくるのが得意なら・・・それが自分の役割になる。

8 苦手なら、助けを求めていい!
苦手なこと、できないことはやってもらってもいい。教えてもらってもいい。ハードルが高すぎないからこそ挑戦できる。

9 自由に考えて、発信できる!
近況報告から始める、お菓子を囲む、など、発言しやすい場だからこそ、企画や改善案がどんどん出てくる。

10 会ったことはないけど、一緒に作った!
同じサウナを別々の時期に手伝っていた、など、リノベならではのつながりが生まれる。それがまた来たくなる理由になる。

11 ものづくりを身近に!
いつも何かつくられていて、手づくりが身近にある。いつも工具が置いてあるから、使ってみたくなる・つくってみたくなる。

12 自分で作って、自分で楽しむ!
自分が割った薪でサウナに入る、スタッフも託児所を利用する。利用者の視点になるからこそ見えてくることも多い。

自走する建築ストック

詳しい動画がご覧いただけます▶

Cloud JAPAN

・デザインの改良、類似デザインとの差異、実績
多くの建築ストックの活用事例を研究した論文が発表されている一方、その研究の範囲は設計・施工・運営開始時に留まり、その後の社会変化の中での持続可能な運営方法や、地域に与えた社会変化まで追った研究はないというのが現状である。
私が実践と研究を行う中で、「設計」「施工」「運営」は切り離されるものではなく、「社会変化」まで含めたグラデーションを持って研究対象にする必要があることが分かってきた。
その全てを抑えるには建築計画学の分野を超えて、この一連の動きを、創造の領域と定義して研究を進める意義があると考えている。
この考え方を、学芸出版社より他ゲストハウスオーナーと共に「まちのゲストハウス考」として発刊。子育てシェアスペース Omusubi は、仙台デザインリーグ 100 選・福岡県建築士会賞等を受賞、ビジネスモデルは復興庁主催「新しい東北」ビジネスプランコンテストにおいて NPO としては 2 年ぶり、学生としては初の企業賞を受賞した。
・具体的なエピソード
現在、ゲストハウス架け橋の隣には、手作りサウナが設置されている。このサウナも地域住民、他地方からのワーキングホリデーの参加者が「もちよる・つくる・たのしむ」過程の中で作られたものだ。ある東京で生まれ育った大学生は、コロナ禍で多様な世界を見る機会が制限されたが故に殻に籠り続けていたが、気仙沼でのサウナづくりで自らの創造性を発揮する過程で気仙沼へ愛着が湧くようになった。また気仙沼来訪後は全国の地方を廻ることにより、地域間の「良さ」を対比することで、「日本が好きになった」と語っている。彼は今年の夏、自らの経験を生かしたプログラミング教室を気仙沼に開校し、就活をせずに気仙沼で起業しようとしている。我々は誰もが誰かのために何かをする喜びを楽しみ続けることのできる世の中をつくり続けていく。

その他、以下リンクの通り、詳細資料を公開している。
・動画形式 説明資料
https://www.dropbox.com/s/e1mc71qb5s2m9qa/autopoietic_houses_movies.mov?dl=0
・スライド形式 説明資料
https://www.dropbox.com/s/flpex84qvhugqri/autopoietic_houses_slide.pdf?dl=0
・プレゼンテーションイベント Hillside breakfast での説明動画
https://www.pechakucha.com/presentations/cloud-japans-presentation
https://youtu.be/In_GLV1QWoI
本項では、その詳細研究について紹介する。
まず、2021 年度報告書内で報告した建築と創造の領域の捉え方を fig.1 の通り、修正した。その上で、研究の全体像は fig2 の通り、空き家活用がどのような社会変化をもたらすかという視点で、社会の側を研究している。

1.2.1「子育てのしやすさ」に関する研究
東日本大震災の被災地、宮城県気仙沼市は、宮城県沿岸における北東端に位置する自治体であり、面積は県内 7 番目の 332.44 平方 km、人口は 61,147

人 (R2 国調) であり、昭和 55 年の 92,246 人 (気仙沼市、唐桑町、本吉町の合計) をピークに年々減少している。 2014 年には気仙沼市も日本創生会議人口問題検証分科会によって消滅可能性都市に該当するとされる 896 自治体 に内包されている (増田，2014)。

震災から 11 年が経過した現在、気仙沼地域も例外なく全国的な人口減少の波に直面しつつある。現在、気仙沼市では、1,000 人程度の人口減少が進み，合計特殊出生率が 1.08 と低迷している。この対策を抜本的に強化していくため、市民全体でこの問題を考え官民が協働して人口減少の緩和と改善に取り組んでいく「人口減少対策市民会議」が設置予定となっている。また、ふるさと納税の寄附金の拡大に伴い、その使いみちを明確化するため，昨年 12 月に「気仙沼市ふるさと応援基金条例」を制定し、人口減少対策の解決に向けた事業 (市民会議からのアウトプットを実現 /「小学校・中学校の給食費 0」「第二子以降の保育料条件なしで 0」「待機児童 0」の 3 つの 0 実現による子育て負担の軽減) に今後 10 年間で 50 億円規模を投資することを決定した。

商工会議所主催人口減少対策会議では、自然増減・社会減へのアプローチは限界があると捉え、社会増を目指し、「①出生率は現状維持、② 25 才流出率を現状より出来るだけ下げ、③移住者数を出来るだけ子育て世代を中心に移住させる施策に力を入れ、現在の年 625 組から 1.5 倍の 1000 組を目指して取り組むことがより現実味のある目標」と結論づけた。

官民の活動に加えて、長年子育て支援活動に従事してきた非営利セクターも一致団結した動きを見せている。2021 年に設立された市内すべての子育て支援団体と行政担当課に所属する個人からなる「けせんぬま子育てコレクティブインパクトプラットフォーム " コソダテノミカタ "」は、これまで過去 2 年間、多くの子育て施策を官民連携で打ち出してきた。

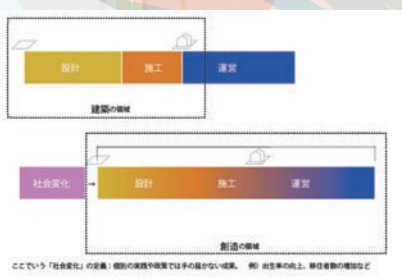

fig.1 建築と創造の領域の捉え方

このような成果が功を奏し、宝島社（2023）は、住みたい田舎ベストランキングで「若者・単身者部門」「子育て世代部門」の二部門で気仙沼市は 2 年連続宮城県内 1 位 /「人口 5 万人以上 10 万人未満のまち」カテゴリの「総合部門」で東北 1 位（全国 5 位）を獲得したことを報告している。
このように、宮城県気仙沼市では行政、民間、非営利セクターが人口減少という課題を乗り越えようと画策し、その成果も現れてきつつある。一方、気仙沼市では、比較的規模が大きく、多様性に富んだ官民連携の子育て環境改善プロジェクトが進んでおり、出生率向上や子育て世代の移住者が集まってきている。本テーマは、気仙沼市と著者が代表を務める「けせんぬま子育てコレクティブインパクトプラットフォーム“コソダテノミカタ”」の共同で行った「けせんぬま子育てタウンミーティング」であがった市民の声と経済学的な統計結果から、地方における「こそだてのしやすさ」の一般化を目指した研究である。
研究結果を以下の通り、実践政策学 第 8 巻 1 号 2022 年 に投稿した。
【タイトル】
宮城県気仙沼市における良好な「子育て環境」の規定要因の理解
―気仙沼子育てタウンミーティングでのグループインタビューを通じて―
【著者】
田中 惇敏、西村 歩、松本 光基、井庭 崇
【要約】
気仙沼こそだてタウンミーティングを通したグループインタビュー、統計的分析や他地方小都市との比較検討、多数の主体との連携・協働に根差した実践からの気づきの記述考察による気仙沼市における良好な「子育て環境」を規定する三つの要因（子どもを見てくれる多様（子育てシェア、第二の祖父母）な担い手 / 子連れ出勤による社会との繋がりの維持 / 地域の子育てを改善するアクターとして活躍 ）の抽出

1.2.2 関係人口創出に関する研究
気仙沼市のふるさとワーキングホリデーの参加者を対象に、再訪する関係人口を半構造化インタビューをもとに SCAT 分析にて理論化した。
学会に投稿済み・査読待ちにて詳細は控えさせて頂く。

2. ソーシャルアントレプレナーが集う場の運営支援事業

本事業では、全国での活動支援するにあたり、経験を貯蓄し続けること、つまり私たち自身もソーシャルアントレプレナーであり続けることが大事であると感じており、「気仙沼ゲストハウス”架け橋”」を運営している。

2.1 気仙沼市ふるさとワーキングホリデー

昨年度からコレクティブインパクトの文脈で、総務省・気仙沼市・市内の企業と連携した「気仙沼市ふるさとワーキングホリデー事業」を運営している。

2.1.1 プログラム実施概要・実施実績

実施概要

参加者の成長機会を創造するプログラム(仕様書第7条(3)ア) 学生及び20代から30代までの若者を主な対象とし、1ヶ月の期間で滞在することを想定し、本市を参加者が成長する機会としてプログラムを企画した。プログラムに必要な事業者との調整を行った。受入企業は、参加者に対して講習会やワークショップを行った。	
企画名	お試し移住④[成長]
趣 旨	①~③プログラムは「学び」(パッシブラーニング)の意図が近いが、現在活躍する移住者を見ると、気仙沼を「成長」(アクティブラーニング)の舞台として参入した人材が多い。また、移住に際して課題となる家という概念を捉え直す機会としてシェアハウスでの共同生活を経験した。
ターゲット	成長したい大学生
就労趣旨	企業インターンとして、これまで多くの移住者を輩出してきた滞在型企業インターンを行った。

実施実績

開催日時	夏期8月13日~9月11日、春期2月11日~3月11日 (現地滞在29泊30日)
就業先	・合同会社colere ・以下のインターン先とインターンシップ契約を行った。 夏期 (1)株式会社菅原工業(1名) (2)株式会社カネダイ(2名) (3)アサヤ株式会社(1名) (4)NPO法人はまわらす(2名) (5)NPO法人Cloud JAPAN(2名) 春期 (1)株式会社みらい造船(1名) (2)株式会社カネダイ(1名) (3)アサヤ株式会社(1名) (4)ゲストハウス”架け橋”(2名) (5)otonari(1名)

宿泊先	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)気仙沼シェアハウス otonari (3)気仙沼シェアハウス“つんとばり”
スケジュール	夏期 8 月 9 日 17:00-19:00 プログラムキックオフ/全体顔合わせ(オンライン) 8 月 10 日 13:00-17:00 地域理解研修(オンライン) 8 月 13 日 気仙沼への移動日 8 月 15 日 ビジネス研修 8 月 16 日～9 月 9 日 プロジェクト推進期間(対面) 9 月 10～11 日 気仙沼からの移動日 9 月 12～16 日 成果まとめ期間(オンライン) 9 月 16 日 18:30～20:30 成果報告会(オンライン) 9 月 17 日 13:00-16:00 修了研修 (オンライン) 春期 2 月 7 日 17:00-19:00 プログラムキックオフ/全体顔合わせ(オンライン) 2 月 9 日 13:00-16:00 地域理解研修(オンライン) 2 月 11 日 気仙沼への移動日 2 月 13 日 ビジネス研修 2 月 15 日～3 月 10 日 プロジェクト推進期間(対面) 3 月 10～11 日 気仙沼からの移動日 3 月 12～16 日 成果まとめ期間(オンライン) 3 月 17 日 18:30～20:30 成果報告会(オンライン) 3 月 25 日 15:00-16:30 振り返り (オンライン)
参加人数	14 名 (夏期 8 名、春期 6 名)
その他	現地までの交通費及び現地での食費は自己負担とした。

実施概要

求職求人のマッチング機会の創造をするプログラム（仕様書第７条(3)イ） 卒業後に就職を希望する学生や求職者を主な対象として、7 日から 31 日までの期間で、滞在することを想定したプログラムを企画し、域内就職を想定した支援を行う。また、プログラムに必要な事業者との調整を行う。	
企画名	お試し移住②［就活連携］
趣　旨	本プログラムでは就職活動を行う学生向けにお試し移住「スローライフ」を改定したプログラムとして位置付けている。就活生は一般に移住しやすい対象であり、集中的に支援することで目標達成に寄与する。
ターゲット	企業紹介から大学 3 年生・大学院 1 年生、ほか大学生～休職中の人
就労趣旨	実際の短期就労を通して、就職して働く場所として気仙沼市を認識してもらう。

実施実績

開催日時	① 5 月 23 日～5 月 31 日【1 名】 ② 8 月 16 日～8 月 24 日【1 名】 ③ 8 月 29 日～9 月 10 日【2 名】 ④ 9 月 12 日～9 月 21 日【4 名】
就業先	・株式会社おかえり【2 名】 ・海光館【1 名】 ・くるくる喫茶うつみ【3 名】 ・男山本店【1 名】 ・Feel 農園【1 名】 ・三陸わかめ屋ムラカミ【1 名】
宿泊先	(1) 気仙沼ゲストハウス“架け橋”
スケジュール	1 日目 ［チェックイン：16～18 時ごろ予定］　チェックイン ［ 夜 ］　架け橋で夕食（自己紹介） 2 日目 ［朝活］　伝承館の見学など ［日中］　気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］　架け橋で夕食 3 日目～ ［就業］　気仙沼市内の企業有償インターン

	［ 夜 ］ 宿などで、夕食・語り部・学びの場（観光客、移住者、地域住民らとともに） ※特に社会人交流や就活相談に焦点を当てる。
参加人数	8 名

実施概要

都市間の関係人口を増加させるプログラム（仕様書第 7 条(3) ウ）

テレワークや副業兼業可能な若者及びオンライン授業を受講する大学生等の二地域居住が可能な者を主な対象とし、7 日から 31 日までの期間で、滞在することを想定したプログラムを企画し、地域間交流を促進する事業を行った。また、プログラムに必要な事業者との調整を行った。

企画名	お試し移住①[スローライフ]	お試し移住②［暮らし体験］	お試し移住③[多拠点居住]
趣　旨	自分が安心できる人が身近にいる環境で、自分の好きなことにチャレンジできる暮らし方や、理想な暮らし方をしたいというニーズが増えている。まちを知り、地域で想いをもって働く人、暮らしている人に出会うことで、自分の今後の進路選択を考えるきっかけになる。この地域で自分がチャレンジしたいことや、理想な暮らし方・生き方ができるという実感をもてることで、移住に繋がることを目的とする。	気仙沼の普段の“暮らし”（ホリデー）とそれに直結する“はたらく”（就労）の組み合わせで、働くこと・暮らすことを問い直すきっかけをつくり、理想の生き方を気仙沼で実現できるかもしれないという実感をもつことで、移住に繋がることを目的とする。	多拠点居住という新たなライフスタイルの提案がなされている。なんでもある便利な都会に住みながら、たまにはスローライフな気仙沼に住む。そんなライフスタイルを提案した。
ターゲット	・自分のやりたいことを見つけたい、視野を広げたいと思う大学1, 2年生 ・卒業後の進路に悩む大学3, 4年生 ・自分のやりたいことのチャレンジのために、今後転職をしようか迷っている、転職活動中、または休職中の社会人1年目～3年目	・働き方の選択肢を増やしたいと考えている社会人 ・卒業後の進路やりたい事について考えたい学生 ・地方での暮らしに興味をある人	・都市部に在住のリモートワーカー ・2 回目の参加者
就労趣旨	日頃体験できない非日常的な作業を行う。作業を通して、日常のありがたみを感じるきっかけ	個人の暮らしの延長線上から発展し、起業された企業（起業家）先での就労を紹介する。	・都市部で培った経験を生かしつつ、気仙沼ならではの仕事ができる就労先を紹介する。

	や、想いをもって働く人の話を聞けることで自分の将来を考えるきっかけをつくる。また、参加者同士のコミュニケーションや、就労先の方との交流も重視する。		

実施実績

開催日時	① 5月20日～5月27日【1名】 ② 6月15日～6月24日【2名】 ③ 7月1日～7月10日【0名】 ④ 7月20日～7月29日【4名】 ⑤ 8月4日～8月13日【2名】 ⑥ 8月16日～8月25日【4名】 ⑦ 8月29日～9月7日【2名】 ⑧ 9月12日～9月21日【4名】 ⑨ 10月16日～10月31日【2名】 ⑩ 11月18日～12月3日【3名】 ⑪ 12月5日～12月28日【6名】 ⑫ 1月13日～1月22日【3名】 ⑬ 1月21日～1月30日【3名】 ⑭ 2月10日～2月19日【5名】 ⑮ 2月21日～3月2日【5名】 ⑯ 3月7日～3月16日【6名】 ⑰ 3月20日～3月29日【6名】 その他ターム外での参加【6名】	①9月13日～9月21日【1名】 ②9月13日～9月22日【1名】 ③9月13日～9月30日【1名】 ④9月17日～9月23日【1名】	参加者の希望があり次第、不定期開催
就業先	・Feel 農園【13名】 ・くるくる喫茶【21名】 ・株式会社おかえり【5名】 ・三陸わかめ屋ムラカミ【5名】 ・まるオフィス【1名】 ・株式会社おかえり【2名】 ・一般社団法人気仙沼市観光協会【4名】 ・旅館 明海荘【5名】 ・一般社団おりがみ【1名】 ・男山本店【1名】 ・ブライダルハウス藤仙【1名】 ・株式会社カネダイ【4名】 ・蔵内之芽組【9名】 ※1名が2企業以上での同時就労あり	・株式会社おかえり【4名】 ・一般社団おりがみ【1名】 ・一般社団法人気仙沼市観光協会【1名】	・株式会社おかえり【10名】 ・一般社団法人気仙沼市観光協会【1名】
宿泊先	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)アコモイン※コロナ対応時のみ (3)シェアハウス”つんとばり” (4)Omusubi (5)シェアハウス”otonari”	(1)シェアハウス“otonari”	(1)気仙沼ゲストハウス“架け橋” (2)シェアハウス“つんとばり”

スケジュール	1日目 ［チェックイン：16～18時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］ 架け橋で夕食（自己紹介） 2日目 ［朝活］ 伝承館の見学など ［日中］ 気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］ 架け橋で夕食 3日目～ ［就業］ 気仙沼市内の企業有償インターン ［ホリデー］ ［ 夜 ］ 宿で夕食・語り部・学びの場（観光客、移住者、地域住民らとともに）※参加者の希望に合わせコンテンツ変更あり	1日目 ［チェックイン：16～18時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］ シェアハウスで夕食 2日目 ［日中］ 気仙沼市内案内 ［ 夜 ］ シェアハウスで夕食 3日目～ ［就業］ 気仙沼市内の企業 ［ 夜 ］ 市内飲食店、シェアハウスで夕食・語り部・学びの場（観光客、移住者、地域住民らとともに）	1日目 ［チェックイン：16-18時ごろ予定］チェックイン ［ 夜 ］ 架け橋で夕食（自己紹介） 2日目 ［朝活］ 伝承館の見学など ［日中］ 気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］ 架け橋で夕食 3日目～ ［就業］ 気仙沼市内の企業有償インターン ［ 夜 ］ 架け橋や飲食店、つんとばりで夕食（観光客、移住者、地域住民らとともに）
参加人数	64名	4名	11名
その他	現地までの交通費及び現地での食費は自己負担とした。		

実施概要

（仕様書第7条(3)エ）

乙は、甲に対して、同号アからウまで定めるプログラムの他に、実施状況や社会情勢に合わせて必要なプログラムを企画提案し、甲の承諾を得て実施した。

企画名	お試し移住⑤[子育て環境]	出張交流会⑥[出張気仙沼]
趣　旨	本プログラムは、気仙沼子育てコレクティブインパクトプラットフォーム「コソダテノミカタ」（構成団体：絵本カフェ架け橋、一般社団法人Omusubi、けせんぬま森のおさんぽ会、わくわくけせんぬま、にじのわ助産院、気仙沼市/代表：田中惇敏氏）が行なっている「日本一子育てしやすい地域、気仙沼。」プロジェクトの視察を行うと共に、地域の子育てままが生き生きと子育てをし、挑戦している姿を見ることを主眼に置いた。	本プログラムは、上記①～⑤に参加した移住検討者が居住地の都心で移住検討者コミュニティを作ること及び移住したい気持ちを向上することを目的に開催する。気仙沼の滞在中は、参加者が固定されるため、横断的に関心の近い人を繋げることで、まとまった移住の議論ができると考えている。

ターゲット	気仙沼市からの人口流出が続く若い女性層	東京、大阪、福岡など参加者の見込まれる都心の住民
就労趣旨	気仙沼市内の子育て団体と一緒に活動することを通して、自分の今後のキャリアを考えるきっかけを作った。	なし

実施実績

開催日時	①12 月 6 日～12 月 14 日 ②2 月 21 日～3 月 21 日	①2022 年 5 月 13, 14 日（東京①） ②2022 年 6 月 10 日（大阪①） ③2022 年 10 月 7 日（東京②） ④2022 年 11 月 26 日（大阪②）
就業先	一般社団法人 Ripple【2 名】	
宿泊先/交流場所	(1)Omusubi	●東京① 〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 1-18-9 WaMaLL 歌舞伎町 8F「完全個室居酒屋 京園 新宿本店」 ●大阪① ビアバル　アレグレ 〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町 1－1 1 DEN・EN BLDG 4F ●東京② 「本格地酒と旬の逸品 十七番地 中野レンガ坂」 〒164-0001 東京都中野区中野 3-35-6 ●大阪② 「食べ飲み個室居酒屋　絆庵 ～KIZUNAAN～」 〒530-0051 大阪府大阪市北区太融寺町 8-17 プラザ梅田ビル３Ｆ
スケジュール	1 日目 ［チェックイン：16～18 時ごろ予定］ チェックイン ［ 夜 ］ シェアハウスで夕食（自己紹介） 2 日目 ［朝活］ 伝承館の見学など ［日中］ 気仙沼市内のまち歩き ［ 夜 ］ シェアハウスで夕食	●東京① 10 月 13 日(土) 18 時 30 分　：スタッフ集合 19 時　：出張架け橋交流会開始 21 時　：出張架け橋交流会終了 10 月 14 日(日) 18 時 30 分　：スタッフ集合 19 時　：出張架け橋交流会開始 21 時　：出張架け橋交流会終了

	3日目～ [就業]　気仙沼市内の企業有償インターン [ホリデー] [夜]　宿で夕食・語り部・学びの場（シェアメイト、移住者、地域住民らとともに）※参加者の希望に合わせコンテンツ変更あり	●大阪① 6月10日(金) 11時発　：仙台から大阪まで（飛行機） 14時着　：大阪着 18時30分　：スタッフ集合 19時　：出張架け橋交流会開始 23時　：出張架け橋交流会終了 6/11(土) 16時　：大阪から仙台まで（飛行機） 19時着　：仙台着 ●東京② 10月7日(金) 18時30分　：スタッフ集合 19時　：出張架け橋交流会開始 21時　：出張架け橋交流会終了 ●大阪② 11月26日(土) 18時30分　：スタッフ集合 19時　：出張架け橋交流会開始 21時　：出張架け橋交流会終了
参加人数	2名	●東京①：28名 ●大阪①：12名 ●東京②：13名 ●大阪②：11名
その他	現地までの交通費及び現地での食費は自己負担とした。	

ワーホリオンライン説明会実績

開催日時	参加人数
2022年6月14日(火) 2022年6月29日(水) 2022年7月17日(日) 2022年7月19日(火) 2022年10月26日(水) 2022年11月1日(火) 2022年11月16日(水) 2022年12月13日(火) ※その他必要に応じて個別開催、またはアーカイブを送付	9名 9名 4名 7名 1名 3名 5名 15名

参加に係る費用

抗原検査代	600円(10月以降1500円)
自転車代(何度でも)	2,000円
洗濯代(何度でも)	1,000円
案内費	3,400円(10月以降3,500円)

※一律7千円(10月以降8千円に変更)

※食費希望制500円

※案内費とは

→案内にかかる交通費などのガソリン代など。

2.1.2 申込状況

申込者数	110 名	
参加者数	103 名	
期　間	2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日	
属　性	18～20 歳 21～23 歳 24～26 歳 27～29 歳 30 歳以上	40 名 43 名 14 名 2 名 4 名

概要

本事業を 4 月から運営を行い、110 名の申込に対し名が本市に訪れた。面談や事前アンケート・事後アンケートの結果から参加者の申込経路から、参加者の属性をまとめた。

流入経路

図 1 は、本事業を認知してから、受入企業先とのマッチングまでの流れを表したものである。図 1 の「認知」にあたる「本事業をどのように知ったか」の事前アンケート結果によると、最も多くを占めたのは「HP からの流入」であった（図 2）。詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

図 1 ワーホリ申込から企業のマッチングまでの流れ

流入経路

令和 4 年 5 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日

媒体		件数	合計
SNS	ワーホリ公式	3	11
	架け橋	8	
ホームページ	総務省公式 HP	39	44
	CJ 特設公式 HP	5	
友人や知人からの紹介		23	23
他団体からの紹介	合同会社 colere	14	14
架け橋スタッフからの紹介		24	24
合計			116

図 2 ワーホリ参加者の申込に至るまでの流入媒体

都道府県別参加者

図３は、本事業の申込者を都道府県別でグラフに表したものである。この結果からは、ふるさとワーキングホリデーの趣旨に該当する都心部からの申込が多いことがわかる。特に「東京都」「神奈川県」などの関東圏からの申込が多い。兵庫県は、関西学院大学でのプログラムによる告知があるため、兵庫の流入が多くなっている。詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

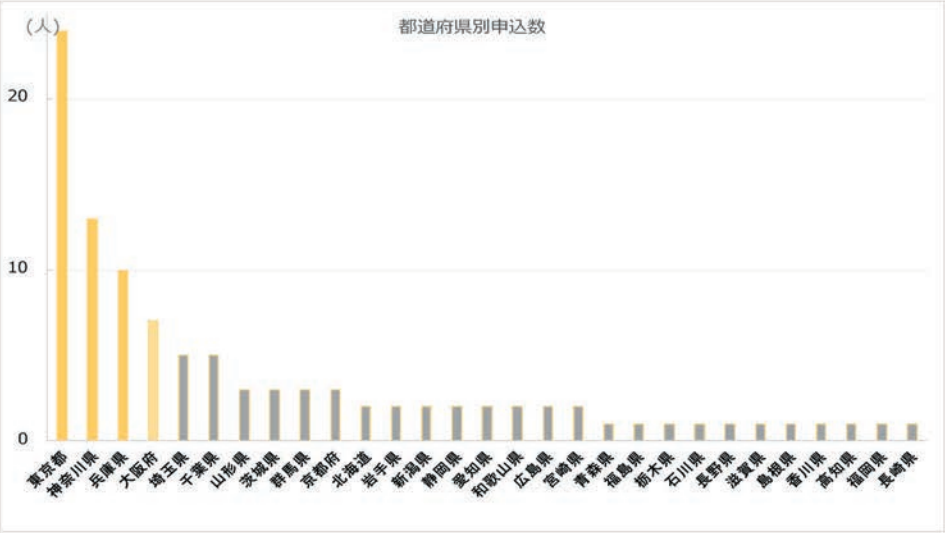

図３　ワーホリ申込者の都道府県別申込者数

所属別申込者数

図４は、本事業の申込者を所属別でグラフに表したものである。昨年度はコロナの関係で、１年間を通じて交流志向が強い傾向だった。だが今年度に入りコロナにおける社会的な移動制限が緩和された為、大学生の長期休暇での受入れが集中し、交流志向以外での志向に幅広く分散されたと感じる。

【大学 1～2 年生：18～20 歳くらいの世代】
［傾向］
・経験志向
　→明確な目標や理由は定まっていないが、自分の経験のため。
・交流志向
　→人との交流や出会いを求めている。

【大学 3～４年生：20～23 歳くらいの世代】
［傾向］
・専門志向
　→大学の学問で地域を学んでおり、実際に地域に行ってみたい（主に大学３年生）。
　→卒論で地域のことを執筆するために、実際に地域での調査をしてみたい（主に大学４年生）。
・迷走志向
　→今後の進路に迷いながら、選択肢を広げるために参加してみる。
・交流志向
　→人との交流や出会いを求めている。

【社会人：23～29 歳くらいの世代】
［傾向］
・転職活動志向（すぐではないがいずれ地方の移住を検討している）

【社会人：30 歳以上の世代】
［傾向］
・転職活動志向（より近い時期の選択肢として地方の移住を検討している）

詳細の数値に関しては、「年度末報告参加者、移住者及び移住者の家族等で住民登録をした者の一覧」に元データが記載されている。

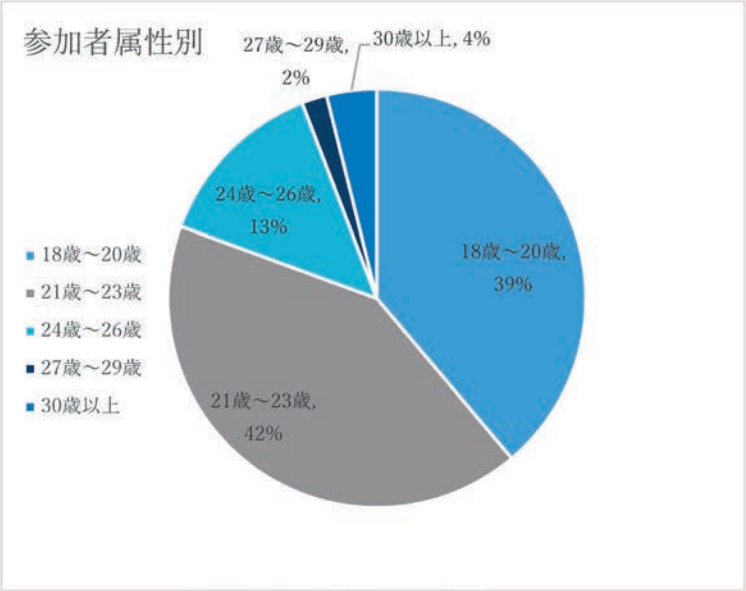

図 4 ワーホリ申込者の所属別申込者数

移住・定住促進施策に関する課題の抽出・整理（仕様書第７条(3)オ）
乙は、同号アからエまでに定めるプログラムの参加者に対して、甲の移住等に関するアンケート調査を行う。

「ふるさとワーキングホリデー事後アンケート」を作成した。以下はそれぞれのアンケート結果である。

就労先の満足度を教えて下さい。
満足度を 10 段階評価で統計をとった。10 が「とてもいい体験ができた」、0 が「あまりいい体験ができなかった」である。

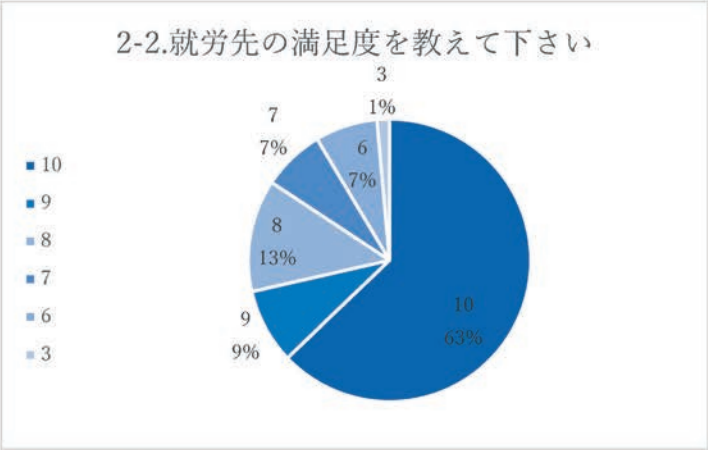

図 5 就労先の満足度

就労先で、印象的に残ったエピソードや想い出を教えて下さい。（抜粋）
・勝さんにどのような野菜を作っているのか仕事をしている中での嬉しいことを聞いた時が印象に残っています。1 つ 1 つの野菜にこだわりを持っていて、野菜を美味しいと食べてくれる瞬間を見た時が嬉しいとおっしゃっていました。自分の好きなことを仕事にしていて、熱意を持って取り組まれている姿がとても素敵だなと思いました。（女性、21 歳）

・くるくる喫茶を訪れたお客さんとお話ししたことや、資料作りのために八日町の方々にインタビューしたことを通して、気仙沼の歴史や震災について知り、気仙沼の方々の温かさに触れることができたこと。また、考えていた気仙沼かるたを作るイベントができ、自分もかるたを通して気仙沼への理解を深め、皆さんにも楽しんでもらうことができたこと。かるたをくるくる喫茶に置いていただけたことで、自分が関わったことが気仙沼に残るような気がして嬉しかったです。（女性、20 歳）

・自分でさばいためかぶを食べたこと。新鮮でおいしく、命を感じた。また、蔵内之芽組が震災を通してできた組合であることを知り、当時の状況を聴けたこともよかった。気仙沼の人の震災の経験やそれから 12 年たってどういう心持で生活をし、2023 年の 3 月 11 日はどのように迎え、今を生きているのかを、同じ時間と空間を共有する 5 日の就労で五感を通して感じることができた。（女性、21 歳）

・一升瓶の日本酒を頂いたこと。自分たちがパッと行って数日手伝っただけで貰えるものの訳がない。
これまで来ていたワーホリ生が真摯に仕事に向き合い、そして何より運営のみなさまが就労先と丁寧にコミュニケーションを取ってくれていたことが、目に見えて結実した証拠だと思います。（男性、24 歳）

滞在先の満足度を教えて下さい。

10 が「とても満足した」、0 が「あまり満足ではなかった」である。7 割の方が「10」と答えてくれ滞在先の満足度が高い結果となった。

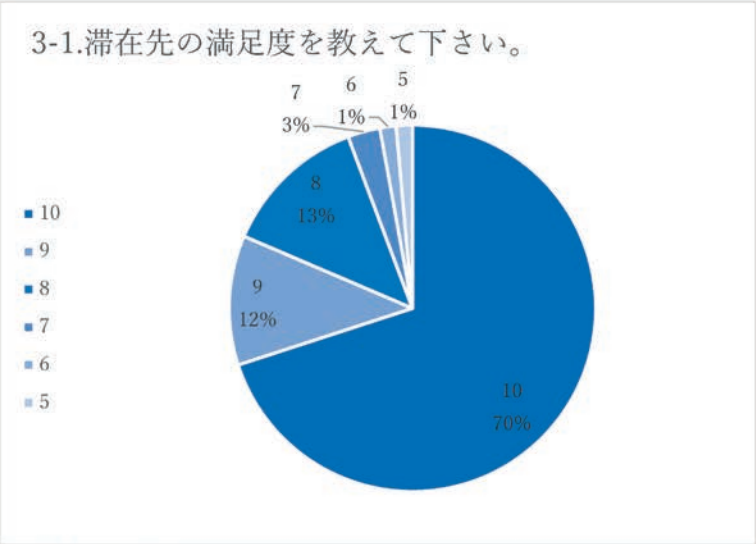

図 6 滞在先の満足度

滞在先で、印象に残ったエピソードや想い出を教えて下さい。（抜粋）

・架け橋のスタッフの方や、ワーホリやインターンの参加者、宿泊者の方など、毎日架け橋にいるメンバーが入れ替わることがとても印象的でした。夜遅くまで色々な話をしたり、カードゲームをしたり、様々な人の考え方や夢、目標が知れて刺激になったと同時に、とても素敵な思い出ができました。（女性、20 歳）

・対人関係に悩みがあった自分にとって、笑わずに真剣に色々な角度から意見を出してくれたメンバーが最も印象に残っている。このおかげで、少し自分のことを好きになってもいいかなーと思えるようになれました！（女性、22 歳）

・地域の方々がたくさん訪れており、時にはお土産を持ってきてワーホリ生にも食べさせていただいたこと、スタッフの方のお誕生日をワーホリ生も一緒にお祝いできたことです。地域の人が訪れ交流の場になっていると知り、とても素敵な場所だと思いました。また、お誕生日のお祝いにも入れてもらえて嬉しかったです。また、気仙沼観光案内をしていただいて、とても綺麗な海を見に行ったり美味しい海鮮丼を食べられたり、気仙沼の魅力を知ることができました。（女性、21 歳）

・参加者やスタッフの皆さんとお酒を飲みながら色々とお話したことが楽しかったです。また、みんなで食卓を囲むってやっぱり素敵だし、必要な時間だよなと改めて実感しました。（男性、22 歳）

満足度を教えてください（全体を通じて）

10 が「参加してよかった」0 が「いまいちだったかな」である。8 割の方が気仙沼のふるさとワーキングホリデーへの満足度が高い数値となった。

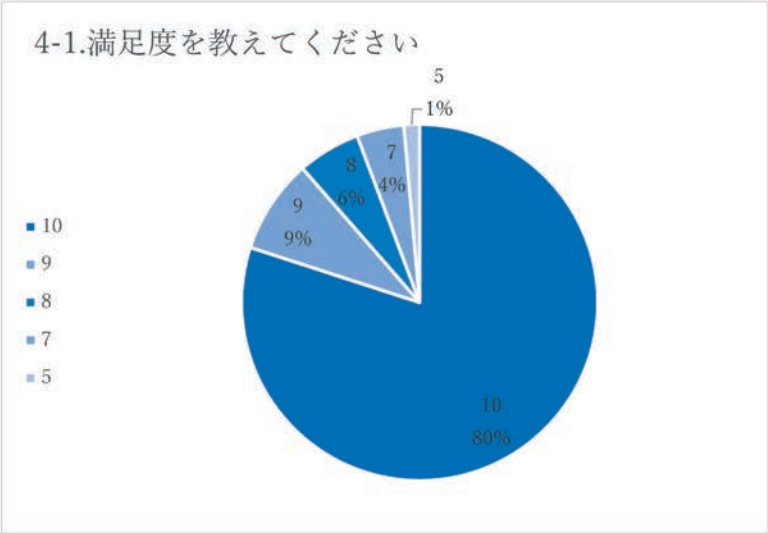

図 7 満足度（全体）

気仙沼のワーホリを友人や知人に勧めたいと思いますか？

10 が「ぜひ勧めたい」0 が「勧めたくない」である。

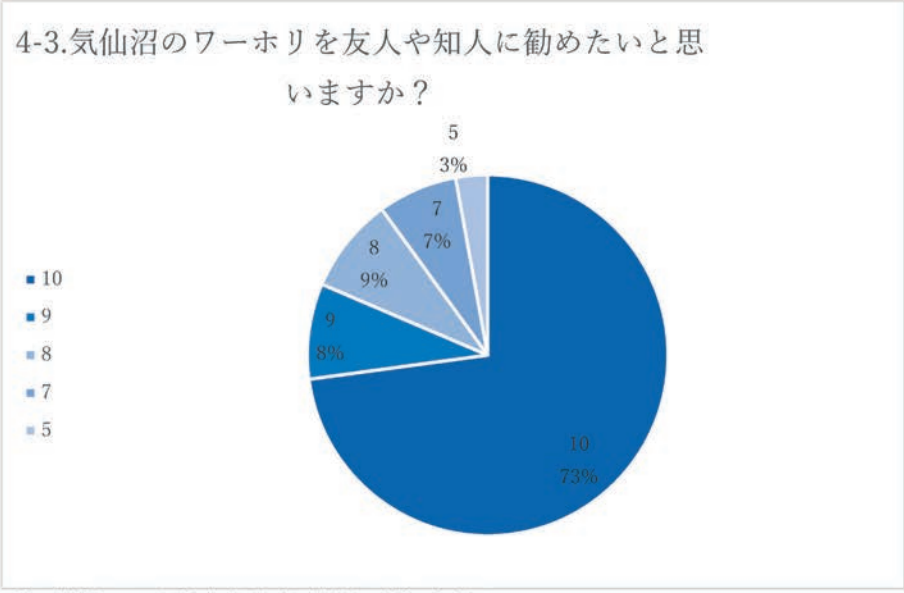

図 8 気仙沼のワーホリを友人や知人に勧めたいと思いますか？

気仙沼とは、今後どのような関わりをしたいと思いますか。

約 7 割の方が「定期的に気仙沼に訪問したい」と答えてくれた。「いずれ移住をしたい」「もう少し長くお試しで気仙沼にいてみたい」の回答者もあわせて 21%いたので、ワーホリ参加後のフォローや移住支援につなげたい。

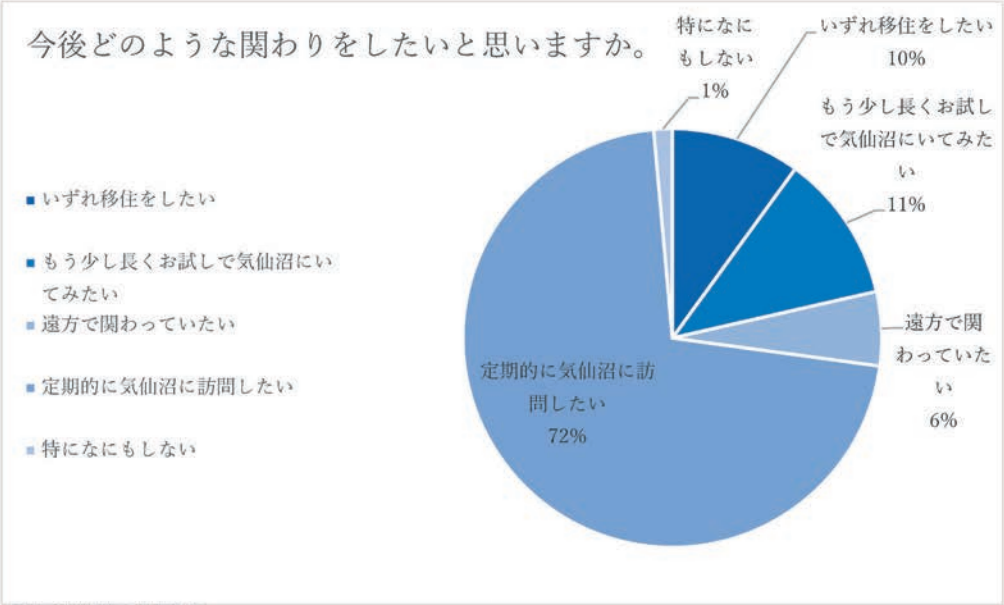

図 9 気仙沼との関わり方

参加者からの全体を通じた声（抜粋）

・ふるさとワーキングホリデーに参加する前は、自分が何が好きなのか、どんな人生を送りたいのか分かっておらず、沢山の選択肢を前に呆然としていました。しかし、気仙沼で沢山の人と出会い、色々な価値観・生き方を知ったことで、自分の進みたい道が段々見えてきた気がします。このような機会を作ってくださりありがとうございました。また是非気仙沼に足を運びたいです。（女性、22 歳）

・気仙沼で過ごしたことを経て、自分自身のコミュニケーション面に変化を感じました。ちょっとしたことですが、出会った人に元気に挨拶するようになったり、ホームステイできていたフィリピンの男の子に自分から積極的に話しかけに行ったり、行く前の私なら躊躇していたことが難なくできるようになっていました。気仙沼での生活のおかげで、初対面のコミュニケーションが楽になり、自信を持って人と話せたような気がします。母にも確かに変わったねと言われ、嬉しかったです。 また、今までずっと触れられなかった話を母に聞きました。私は兄弟について聞かされていなかった話が多く、小さい頃は触れてはいけないという空気を出されており、ずっと知らないふりをしていました。しかし、今回の気仙沼の生活を通して、様々な人が私と向き合って対話してくれたおかげで、私も母ときちんと向き合いたいと感じました。 ずっと避けていたことで怖かったですが、母は全て話してくれ、私の向き合おうとする姿勢に応えてくれた気がしてとても嬉しかったです。おかげで、長年積もっていた不信感が晴れ、両親の抱えていた辛さや兄弟の抱えていた悩みを知ることができました。 気仙沼にいる時は、変化を大きく感じませんでしたが、戻ってきて、向き合えなかったものに向き合えたり、人とのコミュニケーションが円滑になったり、そういった変化が得られました。私はまだまだ成長途中で、生きれば生きるほど未熟な部分がたくさん見つかります。しかし、そんな私でも自分のペースで少しずつ成長していけると今回の経験を通して、自信がつきました。本当に僅かな時間でしたが、お世話になりました。帰ってからこんな変化があったということをぜひ伝えたいと思い、書かせていただきました。本当にありがとうございました！ （女性、20 歳）

・初めてワーキングホリデーに参加したので【地域交流<働く】という方が大きかったらどうしよう…と思っていましたが、全くその心配はなく笑。就労先でも、もちろん滞在した架け橋でも人の温かさや地域の暮らしに触れることができました。スタッフの方たちともお話しする機会が沢山あり自分が言語化できないことをしてくれたり、地域を知ることはもちろん自分自身の新たな発見もできた気がします。ほんと〜〜うにお世話になりました。気仙沼に来れて本当によかったです！（女性、22 歳）

・今回は怪我で仕事を休業しているついでという理由でワーホリに参加しましたが、普通に生活していると感じることができない刺激や様々な方々とお話することでとても勉強になり、内気な自分を少しでも変えられることも出来たと思っています。今後の自身の在り方を考えるきっかけにもなりました。また、地方での暮らしはとても自分に合っているかなと思いました。（男性、23 歳）

・人生の選択肢が増えました。移住のイメージが既に出来上がってる地域のコミュニティ中に入るというので、ハードルが高いイメージがあったので、今回参加して、移住者が集まるコミュニティがあるのなら地方に就職する選択肢もありだなと思いました。（女性、19 歳）

今年度の移住者

内 訳		
	スタッフ関係移住者	1 名（積算 5 名）
	ワーホリ参加移住者	10 名（積算 15 名）

2021年度スタッフ移住者					
1	田中 惇敏	タナカ アツトシ	スタッフ	4月14日移住済	福岡より移住/CJで就労
2	田中 彩夏	タナカ アヤカ	スタッフ親	4月14日移住済	東京より移住/市内企業で就労
3	木原 葵	キハラ アオイ	スタッフ	6月11日移住済	東京より移住/協力隊として就労
4	田中 慧	タナカ サトル	スタッフ	10月1日移住済	茨城より移住/CJで就労
2022年度スタッフ移住者					
5	畠山 千怜	ハタケヤマ チサト	スタッフ	2022年4月移住済	東京より移住/CJ、他企業で就労
2021年度参加者移住者					
1	並木 綾人	ナミキ アヤト	参加者	1月19日移住済	東京より移住/CJで就労
2	笹岡 海咲	ササオカ ミサキ	参加者	12月移住済	大阪より移住/omusubi滞在/他企業で就労
3	五十嵐 裕麻	イガラシ ユマ	参加者	10月31日移住済	埼玉県より移住/他企業で就労
4	今村 ちひろ	イマムラ チヒロ	参加者	2022年4月移住済	愛知県より移住/CJで就労
5	柳瀬 彩花	ヤナセ アヤカ	参加者	2022年4月移住済	兵庫県より移住/地域おこし協力隊
2022年度参加者移住者					
6	深沢 鮎美	フカサワ アユミ	参加者	2022年6月移住済	岩手より移住
7	高橋 桃菜	タカハシ モモナ	参加者	2022年10月移住済	兵庫より移住/休学しCJで就労
8	川嶋 奎	カワシマ ケイ	参加者	2022年10月移住済	東京より移住/CJで就労
9	坂根孝秀	サカネ タカヒデ	参加者	2022年11月移住済	埼玉より移住/CJで就労
10	建石大貴	タテイシ ダイキ	参加者	2023年2月移住済	福井より移住/休学しCJで就労予定
11	竹野歩妃	タケノ イブキ	参加者	2023年3月移住済	福岡より移住/市内企業に就職予定
12	夛田雄介	タダ ユウスケ	参加者	2023年4月移住予	千葉より移住予定/市内企業に就職予定
13	田島愛莉	タジマ アイリ	参加者	2023年4月移住予	神奈川より移住予定/地域おこし協力隊就任予定
14	高野真理亜	タカノ マリア	参加者	2023年4月移住予	福島より移住予定/CJで就労予定
15	藤岡愛理	フジオカ エリ	参加者	2023年4月移住予	福島より移住予定/市内企業で就労予定

今年度ワーホリ参加移住者内訳（10 名）

お試し移住①スローライフ：5 名
お試し移住②就活連携：2 名
お試し移住③多拠点居住：2 名
お試し移住④成長：1 名
お試し移住⑤子育て：0 名

受入企業数	16 社
受入企業一覧	・株式会社おかえり ・株式会社岡本製氷＊ ・まるオフィス＊ ・旅館 海光館＊ ・合同会社 colere ・くるくる喫茶うつみ ・Feel 農園＊ ・三陸わかめ屋ムラカミ ・一般社団法人気仙沼市観光協会 ・株式会社 男山本店＊ ・ブライダルハウス藤仙＊ ・蔵内之芽組 ・"コソダテノミカタ" 事務局（一般社団法人 Ripple）＊ ・一般社団法人おりがみ＊ ・旅館 明海荘＊ ・株式会社カネダイ＊ ＊は今年度からの受入企業

企業様からの声

昨年度 1 年間の実績があり、ふるさとワーキングホリデーが気仙沼において少しずつ浸透してきた。その為、新規受入事業所様の件数も増加した。事業所の数も増加したことと、昨年度の反省も踏まえ、受入のフローや就労中のサポートがスムーズになった。

【受入企業先におけるふるさとワーキングホリデーの活用事例】

◎繁忙期における人員確保（Feel 農園、一般社団法人気仙沼市観光協会、蔵内之芽組など…）
・短期アルバイトの要素で人材をフレッシュな若者を県外から確保できる。

◎本雇用に向けた試用期間としての活用（三陸わかめムラカミ、株式会社 男山本店など…）
・ワーホリ期間を新年度採用に向けた試用期間やインターンと位置づけることで、どのような人材かを見極めることができ、雇用後のミスマッチを防げる。

◎県外の若者の受入による事業活性（くるくる喫茶うつみ、株式会社カネダイ…）
・県外の若者が入ってくれることにより、様々な人の関わりしろができる。そうすることで、事業の活性が図られ、事業所が目指すまちづくりの活性にも繋がる。

◎若者の成長機会創出（まるオフィス、合同会社 colere など…）
・若者の成長機会を設けてくれると同時に、事業でのインターン的役割を担う。

【受入企業先におけるふるさとワーキングホリデーの受入に対するネック】

◎受入期間が短い
・基本的なメインプログラムは「9 泊 10 日」であった為、実質の就労日数は 5 日程度である。その期間の受入にあたって、教育コスト・賃金のコストがネックにある。その為、単純労働的な作業が多く、その中での参加者の満足度をいかにあげられるかが課題である。事業所様側の配慮もあり、イベント企画を任せてくれるなどの企業もあったが、イベントをやって終わり、というものが多く、事業所様にとってその後も活用できる持続的なものの創出が困難であった。また、やってもらいたい仕事はあるが、5 日間の受入だと、事業所様にとっても参加者さんにとっても期間が足りず、もう少しいてほしい、いたい、という声も実際に一部あった。
　次年度はより長い滞在期間、就労日数にすることで就労先や気仙沼での体験の満足度をさらに高めていく方針である。

3. ソーシャルアントレプレナーの資金調達支援事業
今年度は実施しなかった。

4. 地域で活動するソーシャルアントレプレナーに係る情報発信事業
本事業では、情報を取りまとめ発信することでソーシャルアントレプレナーを支援している。
4.1 講演活動
2022 年度は以下の通り、11 本の講演（オンライン含む）を行った。

日にち	場所	内容	概算参加人数
4 月 26 日	オンライン	第 129 回まちカフェ夜学	10 人
7 月 11 日	LIFULL 本社	井上社長起業家 mtg	30 人
7 月 8 日	気仙沼 JC	コソダテノミカタと企業	50 人
9 月 13 日	六本木ヒルズ	自走する建築ストック	60 人
11 月 11 日	宮城県庁	移住定住会議	100 人
11 月 17 日	オンライン	新潟大建築社会システム特論	40 人
12 月 15 日	商工会議所	人口減少の要因分析	20 人
1 月 16 日	滋賀県立大学	イノベーション特論	10 人
1 月 21 日	東北大学	シンポジウム	40 人
3 月 14-16 日	架け橋	ゲストハウス立ち上げのコツ	2 人
3 月 23 日	オンライン	伊予市ワーホリ事業説明	7 人

5. ソーシャルアントレプレナーの育成及び事業促進の教育支援事業
本事業では、事業運営団体に実際に所属し、教育的な視座からソーシャルアントレプレナーを支援している。

地域	会社名	関係	事業内容
鹿児島県	株式会社燈	役員	定例役員会での指導
福岡県	NPO 法人 RAS 研究会	役員	資料の作成・会議運営
全国	株式会社キタイエ	業務委託	事業運営のサポート
宮城県	一般社団法人おりがみ	業務委託	決算資料の作成

6. 運営組織

以下の通り、役員の役職と所属をまとめ、社員の名簿をまとめる。

代表理事：田中 惇敏（慶應義塾大学 SFC 後期博士課程）

副代表理事：半沢 裕子（一般社団法人おりがみ代表理事）

理事：喜多 恒介（株式会社キタイエ代表取締役）

小出 悟（元 みしおね横丁 ワルンマハール店長）

川嶋 奎（元 気仙沼市地域おこし協力隊，一般社団法人 Omusubi）

監事：谷川 徹（e.lab 代表）

社員：畠山千怜、高田美由紀、伊藤愛、鈴木和海、竹中幸、坂根孝秀、今村ちひろ、高橋桃菜（2022 年 3 月末現在）

2022 年 12 月のチーム

（プロボノ 2 名含む）

7.. 収支報告

7.1 ２０２２年度活動計算書

2022 年　4 月　1 日　～　2023 年　3 月　31 日　まで

(単位:円)

科　目	金　額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	42,000		
賛助会員受取会費	0	42,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	3,448,497	3,448,497	
3. 受取助成金等			
受取公的補助金	4,000		
受取公的助成金	8,589,246		
受取民間助成金	14,164,000	22,757,246	
4. 事業収益			
自主事業収益	5,653,097		
受託事業収益	22,251,372	27,904,469	
5. その他収益			
受取利息	72		
雑収益	0	72	
経常収益計			54,152,284
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	15,710,218		
福利厚生費	75,614		
法定福利費	5,571,784		
人件費計	21,357,616		
(2)その他経費			
通信運搬費	3,734,376		
賃借料	250,000		
地代家賃	1,880,200		
印刷製本費	41,404		
消耗品費	2,037,729		
旅費交通費	5,497,086		
諸会費	10,200		
水道光熱費	1,173,928		
租税公課	0		
支払手数料	366,048		
売上原価	902,636		
消耗品費	87,956		
衛生管理費	329,092		
協礼謝金	206,559		
業務委託費	5,504,071		
支払助成金	13,461,857		
保険料	85,480		
雑費	88,625		
広告宣伝費	358,234		
その他経費計	36,015,481		
事業費計		57,373,097	
2. 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
法定福利費	0		
人件費計	0		
(2)その他経費			
通信運搬費	67,328		
印刷製本費	59,258		
消耗品費	69,167		
業務委託費	89,548		
地代家賃	60,000		
諸会費	68,400		
支払手数料	36,210		
保険料	67,640		
租税公租	176,700		
その他経費計	694,251		
管理費計		694,251	
経常費用計			58,067,348
当期正味財産増減額			△ 3,915,064
前期繰越正味財産額			4,941,538
次期繰越正味財産額			1,026,474

「その他事業」は実施しておりません。

Cloud JAPAN

7.2 事業別損益の状況

（単位：円）

科　目	ソーシャルアントレプレナーお	ソーシャルアントレプレナーお	ソーシャルアントレプレナーの	地域で活動するソーシャルア	ソーシャルアントレプレナーお	事業部門計	管理部門	合計
Ⅰ　経常収益								
1.　受取会費	0	0	0	0	0	**0**	42,000	**42,000**
2.　受取寄付金	0	10,000	0	0	3,438,497	**3,448,497**		**3,448,497**
3.　受取助成金等								
受取公的補助金	0	0	0	0	0	**0**	4,000	**4,000**
受取公的助成金	0	8,589,246	0	0	0	**8,589,246**	0	**8,589,246**
受取民間助成金	0	0	0	0	14,164,000	**14,164,000**	0	**14,164,000**
4.　事業収益								
自主事業収益	236,000	5,243,447	0	123,250	50,400	**5,653,097**	0	**5,653,097**
受託事業収益	0	22,251,372	0	0	0	**22,251,372**	0	**22,251,372**
5.　その他収益	0	0	0	0	0	**0**	72	**72**
経常収益計	236,000	36,094,065	0	123,250	17,652,897	**54,106,212**	46,072	**54,152,284**
Ⅱ　経常費用								
(1)　人件費								
役員報酬	0	0	0	0	0	**0**	0	**0**
給料手当	0	15,710,218	0	0	0	**15,710,218**	0	**15,710,218**
福利厚生費	0	75,614	0	0	0	**75,614**	0	**75,614**
法定福利費	0	5,571,784	0	0	0	**5,571,784**	0	**5,571,784**
人件費計	0	21,357,616	0	0	0	**21,357,616**	0	**21,357,616**
(2)　その他経費								
通信運搬費	13,650	3,507,940	149,529	0	63,257	**3,734,376**	67,328	**3,801,704**
賃借料	0	250,000	0	0	0	**250,000**	0	**250,000**
地代家賃	828,400	1,051,800	0	0	0	**1,880,200**	60,000	**1,940,200**
印刷製本費	0	41,404	0	0	0	**41,404**	59,258	**100,662**
消耗品費	74,587	1,931,142	0	0	32,000	**2,037,729**	69,167	**2,106,896**
旅費交通費	2,697,217	2,733,109	0	66,760	0	**5,497,086**	0	**5,497,086**
諸会費	0	10,200	0	0	0	**10,200**	68,400	**78,600**
水道光熱費	669,417	504,511	0	0	0	**1,173,928**	0	**1,173,928**
租税公課	0	0	0	0	0	**0**	176,700	**176,700**
支払手数料	20,043	246,489	0	0	99,516	**366,048**	36,210	**402,258**
売上原価	41,251	855,785	0	0	5,600	**902,636**	0	**902,636**
消耗品費	0	0	0	0	87,956	**87,956**	0	**87,956**
衛生管理費	58,628	270,464	0	0	0	**329,092**	0	**329,092**
協礼謝金	0	48,459	0	28,600	129,500	**206,559**	0	**206,559**
業務委託費	167,200	3,836,871	0	0	1,500,000	**5,504,071**	89,548	**5,593,619**
支払助成金	0	0	0	0	13,461,857	**13,461,857**	0	**13,461,857**
保険料	0	75,480	0	0	10,000	**85,480**	67,640	**153,120**
雑費	0	88,625	0	0	0	**88,625**	0	**88,625**
広告宣伝費	0	330,000	0	0	28,234	**358,234**	0	**358,234**
その他経費計	**4,570,393**	**15,782,279**	**149,529**	**95,360**	**15,417,920**	**36,015,481**	**694,251**	**36,709,732**
経常費用計	**4,570,393**	**37,139,895**	**149,529**	**95,360**	**15,417,920**	**57,373,097**	**694,251**	**58,067,348**
当期経常増減額	**△ 4,334,393**	**△ 1,045,830**	**△ 149,529**	**27,890**	**2,234,977**	**△ 3,266,885**	**△ 648,179**	**△ 3,915,064**

8. 終わりに

私たちは明るい未来をつくることができているだろうか？

まずは、昨年度も多くの皆様のご支援賜りまして誠にありがとうございました。私たちスタッフだけでは決してなし得ない景色を見ることができているのも日々支えてくださっている皆様のおかげです。

毎年、この報告書を作成する年度はじめのこの時期になると、いつも考えるのです。
私たちは明るい未来をつくることができているだろうか？と。

今年の年度末始も多くの別れと出会いがありました。
一緒に活動してきた仲間や移住者がまちを離れ、今年度からは新卒３名、1名の第二新卒が仲間入りし、色も変わってきました。
ゲストハウスは５代目のメンバーが大きくコンセプトを変え、「好きなものを好きでいられる空間」として、内装からサービスまでアフターコロナのゲストハウスを模索し続けてくれています。
気仙沼ふるさとワーホリも、コンセプトから再設計し、滞在期間や就労内容まで１から考えました。

この行程一つひとつが、常に明るい未来をつくることに繋がっているのかを丁寧に精査しながら、新たなメンバーとともに１２年目となる 2023 年度も愚直に進めて参る所存です。
引き続き皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

認定特定非営利活動法人 Cloud JAPAN
代表理事　田中 惇敏

Cloud JAPAN